

「こどもの心を育てるせたがやアートフェスティバル」事業

芸術の持つ力で子どもの想像力と創造力を育てるプロジェクトを推進

世田谷パブリックシアターは、地域に貢献できる劇場のあり方を常に模索している。今年度も「心を育てる」をテーマとして、中・高生による新たなパフォーマンスの創造と、子どもと大人に向けた読み聞かせの会を開催した。

アーティストと、仲間と、共同制作を体験する「トバズニバ」

世田谷パブリックシアターは開館15周年を記念して、中・高生を対象とした新しいプログラムを行った。子どもたちがプロのダンサーなどと共同して、作品を創作し発表するという試みである。公募をしたところ、33名の応募があり3ヶ月にわたるワークショップを経て、11名がステージに立った。

主催した「こどもの心を育てるせたがやアートフェスティバル」実行委員会の清水幸代さんは、このイベントの狙いについて次のように語る。

「まず自分たちの身体を創るということ。そしてプロのアーティストと出会い、スタッフや仲間たちと相談しながら1つの作品に仕上げるという体験をしてもらうことです」

「トバズニバ」というグループを結成し、中・高生がいつも考えているようなことや衝動的で躍動感ある状況を表現に繋げていく試みである。

指導側は、振付家でダンサーの伊藤キムさん、楠原竜也さん、そして舞台音楽家の棚川寛子さんが担当した。といっても、お仕着せで踊らせるのではない。既存のダンスや演劇などのスタイルにとらわれない、新しい方法でオリジナル作品を創作した。

こうしてできあがった作品は約1時間という大作になり、8月14日にはシアターラムで2回の公演を行った。最初は無音から始まり、次第にパフォーマンスへと移行していく。ダンスだけではなく、効果音を創るための音具を使って音を出したり、舞台上で展開されている状況をア

ナウンスのように表現したり、多彩な演出がある。子どもたちから出たアイデアが使われている。

「このプログラムを通じて、子どもたちは自分の身体を使って新しい動きを発見し、気持ちを込めて表現する事で、人とのコミュニケーション手段にもなるということを発見したはず。彼らは今後それぞれの道を歩んでいきますが、実社会に出てもこの体験は役立つでしょう」と清水さんは結んだ。



参加した中・高生にとって貴重な体験となった



パフォーマンスには、随所の中・高生が考えたアイデアが演出のなかに盛り込まれた



真剣な表情で練習する中・高生たち



「おめでとうおひさま」を読む小林顕作さん
(作=中川ひろたか 絵=片山健 小学館)

子どもの夢がかなう読み聞かせ「お話の森」

もう1つの子ども向けプログラムが、3回目となった「お話の森」である。「子どもとおとなのための読み聞かせ」という副題がついているように、親御さんに読み聞かせの重要性や楽しさを伝える場でもある。

2012年は、俳優の仲村トオルさん、ミュージシャンのROLLYさん、俳優・演出家・脚本家の小林顕作さんの3名が読み手を務めた。読み聞かせと言っても、一流のプロフェッショナルがそれぞれ工夫を凝らした、エンターテイメントになっている。

開催日は8月4日、5日。シアターラムは夏休み中の子どもたちであふれかえった。

仲村トオルさんは小さい子向けに絵本を読む回のほか、小・中学生以上を対象に、長めの本を読むという新しい試みを行った。

担当した小宮山智津子さんはこの企画について「通常は絵本を背景に映し出すのですが、あえてそれをしないで、読み聞かせによって子どもたちの想像力を引き出すことを狙いました。絵本を足がかりとして、演劇や絵画、映画など他の芸術に親しみきっかけになってくれればうれしいですね」と語る。

ROLLYさんは、魔術師のような出で立ちで登場。得意のシンセサイザーで効果音などを全て演奏しながらの迫力のある演出に、子どもたちはどんどん引き込まれていく。話を読んでいるかいつのまにか歌っているなど、ミュージシャンならではの読み聞かせと言える。

小林顕作さんは、ステージに四畳半のようなセットを用意した。子どもとの距離感をなくし、フランクに語り

担当者より



ここでしか味わえない「心を育てる事業」ができました。

「こどもの心を育てるせたがやアートフェスティバル」実行委員会
清水幸代さん(右)
小宮山智津子さん(左)

次代を担う世代を感受性豊かに育てるということは、劇場の使命でもあると考えています。おかげさまで、今年もここでしか味わえない「心を育てる事業」ができました。未来を展望した活動に助成をいただいたことはたいへん有り難く、心より感謝申し上げます。

という意図である。時には子どもを舞台に上げる演出も行った。

小林顕作さんはこの後、世田谷文学館、小金井市民交流センター、鎌倉芸術館、江戸川区総合文化センターで、またROLLYさんは大阪府の高槻現代劇場でも同じ内容の読み聞かせを行ったが、どの回も観覧後の子どもはにこにこ顔。それを見て親も笑顔になっていく。

小宮山さんは「子どもの夢がかなう、親の夢が実現する、そんな芸術本来のよさがでているステージだと思います」と語る。芸術を通して家族の絆を深め、子どもたちの健やかな成長を促すため、これからも続けていく予定である。



「お話の森」を告知するチラシ